

中期経営計画における経営目標・経営指標の進捗状況

法人名等		目標の内容・実績			
【法人名】 株式会社さいたまアリーナ	目標	幅広いお客様に感動と満足を感じていただける魅力あるイベントを提供することで、施設価値の向上、高稼働率の維持と利用料金収入の増加を目指す。		安心・安全で快適な施設であり続けるため、施設の点検・修繕を確実に実施し、利用者の安全確保に万全を期すとともに、施設の魅力を維持・向上するためのバリューアップに努める。	さいたま新都心のにぎわい創出を推進することで、魅力あるまちづくりに貢献するとともに、埼玉県のさらなる魅力発信の大きな原動力となる。
		稼働率: 80.0%以上	利用料金収入: 2,400,000千円以上	施設を起因とするイベントの開催に影響を与える重大な事故の発生: 0件	さいたまスーパーアリーナ・けやきひろば・TOIROへの来場者数: 年間500万人以上
【中期経営計画の期間】 令和元年度～令和5年度	各年度の実績	【令和元年度実績】 77.0%	【令和元年度実績】 2,707,588千円	【令和元年度実績】 0件	【令和元年度実績】 約567万人
		【令和2年度実績】 26.0%	【令和2年度実績】 506,806千円	【令和2年度実績】 0件	【令和2年度実績】 約60万人
		【令和3年度実績】 68.5%	【令和3年度実績】 2,192,202千円	【令和3年度実績】 0件	【令和3年度実績】 約177万人
		【令和4年度実績】 73.7%	【令和4年度実績】 2,502,180千円	【令和4年度実績】 0件	【令和4年度実績】 約391万人
		【令和5年度実績】 79.0%	【令和5年度実績】 2,742,884千円	【令和5年度実績】 0件	【令和5年度実績】 約469万人
法人による自己評価	<p>令和5年度は、5月に新型コロナウイルス感染症の感染症法上の位置付けが5類に移行し、感染防止対策をはじめ各種の制限が大きく緩和された中で運営を行うことができた。</p> <p>社会経済活動の正常化が進む中で、社員一丸となり、コロナ禍前のにぎわいを取り戻すべく、主催者と連携を図りながら多くのコンサートやスポーツイベント等を開催し、多くのお客様に戻ってきていただいた1年間となった。</p> <p>稼働率は、目標とした80%にわずかながら届かなかったものの前年度の73.7%から79.0%まで改善し、休日稼働率についてはコロナ禍前と比較しても遜色ない水準まで戻すことができた。</p> <p>一方の利用料金収入は、単価の高いアリーナの稼働率が高い水準に戻ったことや、イベントの人数制限がなかったことによる駐車場利用の増加などによって、目標値を上回る実績となった。</p> <p>全体としては、「YOASOBI」や「Mrs.GREENAPPLE」など話題性のあるアーティストによる音楽コンサート、「RIZIN」、「Breaking Down」などの格闘技、フィギュアスケートの「JAPAN OPEN」、「第99回天皇杯バスケットボール決勝」などのスポーツイベント、展示会等の企業系イベントなど多彩かつ注目度の高い、そしてバランスの取れたイベントを誘致することができた。</p>				
		さいたまスーパーアリーナは、開業から20年超が経過し老朽化は進行しているが、日常点検等での不具合の早期発見と、必要な調査や修繕を的確に行っている。	また、イベントの設営や撤去、施設の修繕工事における作業者の安全管理を徹底し、施設を起因とする重大事故の発生はゼロを維持している。	令和5年度は、来場者の意見を踏まえ、障害者もより安心して施設を利用できるよう既存の固定席を取り外し可能とし、車椅子対応席に転換することができる整備を行った。	
		令和5年度は、5月に新型コロナウイルス感染症の感染症法上の位置付けが5類に移行し、社会経済活動の正常化が進んだことで、多くのコンサートやスポーツイベント等を開催することができた。	その結果、さいたまスーパーアリーナの来場者数は、前年度を約50万人上回る約258万人の来場となった。	けやきひろばの賑わい創出の面では、春の「ビール祭り」をコロナ禍前と同様に屋外で開催したほか、8月には4年ぶりに「水かけまつり」を開催するなど、当社による自主事業にも注力することで、来場者の増加に努め、前年度を約29万人上回る、約209万人の来場者数となった。	
		TOIROを含む全体の来場者数は、約469万人と目標に届かなかったが、引き続き、さいたま新都心のにぎわい創出に努めていく。			